

ONESOURCE GLOBAL TRADE RPS (懸念取引先スクリーニング)

レピュテーションリスクの管理

商取引には、企業を脅かしかねないリスクが潜んでいます。国内外のビジネスパートナーと、信頼に基づいた安全な取引を行えること、そして事前にリスクを回避し、会社の評判を傷つけないようにすることは、大変重要なことです。

トムソン・ロイターのRPS(Restricted Party Screening、懸念取引先スクリーニング)は、企業の既存の業務システムと連携し、顧客やサプライヤーの検証を支援します。企業や個人に関する最も包括的な情報ソースとしてグローバルレベルで定評のあるAccelus World Checkを活用し、国内外の法令により制限されている取引先でないかを判断することが可能です。

Accelus World Checkは、財務省による経済制裁措置及び対象者リストや経済産業省による外国ユーザーリストなどの公的な制裁リストに加え、240カ国をカバーした追加リストや補足情報など、合計500以上のリストを保有しています。また、200名を超える専任チームによりアップデートされ、常に最新のコンテンツを提供します。

既存業務システムとの連携により、顧客やサプライヤーのマスターデータへの新規登録、更新時にはスクリーニングプロセスが自動的に起動します。検証プロセスが完了するまでは、顧客／サプライヤーのステータスはブロックされた状態になり、物流や財務情報に関する登録が一切できません。また、既存の取引先についても定期的に再スクリーニングが行われ、新たに制裁リストへ追加、あるいは削除された取引先については通知が行われます。



RPSソリューションの特長



顧客・サプライヤーとの取引における安全性を強化

- 企業・個人をスクリーニング
- 制裁リスト、警戒リスト、規制リストを100%網羅し、自動更新
- リスト以外に10万を超える情報源に基づく広範囲にわたるグローバル・メディア・リサーチ
- 地域特有の名前、非ラテン文字による検索



法的要件への準拠

- 米国国務省および商務省、その他機関が定めるデューデリジェンス要件に対応したスクリーニング結果の監査証跡を記録
- 腐敗行為防止への準拠
- 輸出規制違反、罰則、輸出特権取り消しの回避



業務システム内でスクリーニングを自動化

- 業務システムのマスターデータ作成・更新時に、自動的にスクリーニングを実施
- 既存の取引先を定期的に再スクリーニング
- 業務システム（ERP/CRM/SRM）とオンラインで統合



世界トップレベルの確かなコンテンツ

- 500件以上の制裁リストを一度にスクリーニング
- 政府リストでカバーしきれない重要な識別項目を追加
- 200名を超える専任アナリストが240カ国、60以上の言語で調査
- 氏名、年齢、生年月日、住所、国籍など30以上の識別項目で検索精度を向上させ、誤検出を防止

アジア太平洋

電話：

オーストラリア：1800 074 333

中国：+86 10 59695100

インド：+91 11 6110 2120

韓国：+82 2 2076 8023

ニュージーランド：0800 785 483

シンガポール：+65 9829 62 70

その他アジア：+65 9829 62 70

日本：

〒107-6119 東京都港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル 19F

Tel：03-4589-2490 Fax：03-4589-3240

Eメール：TA.ONESOURCEGlobalTradeJapan@thomsonreuters.com



THOMSON REUTERS™